

第 1 回大気環境保全専門委員会における主な意見とその対応

項目	意見	対応
1 全般	各種分析について市民にもわかりやすいよう解説等を追記すべきである。	各種分析についての解説や図表を追加しました。 p. 6 2.3 クラスタ分析（解説） p. 10 2.4 相関分析（解説） p. 19 2.4(1) 相関分析（地図＋棒グラフ） p. 49 2.5(2) ア 対象月の総降下ばいじん量に占める各項目の量の割合（100%積み上げ棒グラフに差替え） p. 101 2.6 主成分分析（解説） p. 104 2.6(2) 全データでの分析 p. 126 資料編 2 総降下ばいじん量が 20 t/km ² /月（g/m ² /月）及び 10 t/km ² /月を超過した月 p. 128 資料編 3 各項目の経月変化（グラフ） p. 143 資料編 4 調査地点の概況
2 降下ばいじん量が大きい月等の状況	最多風向を評価に用いているが、ほかに最適な評価方法があれば検討したい。	強風時（6m/s 以上）を対象に、改めて評価を行いました。 p. 94 2.5(2) イ 対象月の風向・風速と常時監視項目等の状況【追加】
3 その他	特定の地点について降下ばいじんが多いかどうかという判定に関して、ある程度想定される発生源が風上となる風向だけを抽出して、その風向とそれ以外のときに有意差があるかどうか、統計的に意味がある差が出現しているかどうかというような、仮説の検証に耐え得るようなデータの処理方法というのも場合によれば検討の必要があるのではないか。	臨海部の工場等を発生源と想定し、特定の気象条件を満たした月とそれ以外の月で、降下ばいじんの各項目の平均値に統計的に有意な差があるかどうか検定を行いました。 p. 107 2.7 発生源の影響に関する検定【追加】
4 評価	アリオの近くのところだけが突出して多いということは、南西あたりに何かあるのではないか。	ご意見を踏まえた総合評価を記載しました。 p. 111 3 総合評価【追加】
5 評価	一般環境で鉄の成分割合が 10%を超えるということはないので、工場由来が大きいのではないか。	
6 評価	元素状炭素の降下ばいじんは大きい粒子のため、工場・事業場から発生しているといえるのではないか。	
7 評価	海側からの風によって、臨海部の成分値が高く、後背地にいくとだんだん低くなることから、臨海部に発生原因があると推察できる。	
8 評価	クラスタ分析から、千葉市の西寄りの 4 地点と土気等で違う汚染の形状があると端的に示されている。物質間の特徴でこの地区の特徴的な発生源が多分出てくるだろう。	
9 評価	主成分分析において第 1 主成分を同時に排出するものは何かを見ていくべき。	